

新薬が続く関節リウマチの治療法

福島安紀・医療ライター

2020年10月28日



関節リウマチは、手や足の指、手首、足首の関節が腫れて痛み、朝起きたときに手や足にこわばりを感じる病気。関節が破壊されると手や足の指が変形して、生活や歩行に支障が出ることが多い。しかし、近年、薬物療法が劇的に進み、関節が破壊される前に病気の進行をくい止めることが可能になってきた。今年9月にも新薬の製造販売が承認された関節リウマチの治療について、日本リウマチ学会理事で、松野リウマチ整形外科（富山市）院長の松野博明さんに聞いた。

「関節リウマチの治療は、できるだけ早く抗リウマチ薬のメトトレキサート（商品名:リウマトレックスなど）を使って、関節の破壊を防ぐことが重要です。関節の破壊は発症から2～4年の間に急速に進むことが分かっており、いったん手や足の指が変形してしまったら元に戻すことは難しいからです」。松野さんは、そう強調する。

関節リウマチは、免疫機構の誤作動で自分の組織を攻撃して関節に炎症を起こす自己免疫疾患の一つだ。メトトレキサートは、関節の炎症を起こしている免疫細胞に働きかけ、炎症を抑制する作用がある内服薬。1週間のうち、曜日を決めて1～2日、1～3回服用する。ただし、体に不可欠な葉酸の働きを抑えると、貧血、食欲不振、口内炎、下痢などの副作用が起きるので、葉酸製剤を補うことがある。

この記事は有料記事です。

残り2698文字（全文3248文字）